第 108 回関西スペイン語教授法ワークショップ (TADESKA) 開催の報告

CVIII Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai

日時：2017 年 06 月 03 日 (土) 10:30 - 12:30

場所：関西学院大学梅田キャンパス(ハブスクエア) 1004 教室

担当者：岸田早織

「講読：スペイン王立学士院、スペイン語学士院協会(2011)『スペイン語新文法基礎』 第 3 部 「統語論」

IIIa 単文構造 第 18 章 「形容詞句・前置詞句・副詞句」 pp. 185-189」

* Fecha y hora: sábado, 3 de junio de 2017, de 10:30 a 12:30

* Lugar: Universidad Kwansei Gakuin, Campus de Umeda "K.G. Hub Square", Aula 1004

* Encargada: Saori Kishida

* Lectura de la "Nueva gramática básica de la lengua española:

Apartado 18 "Los grupos adjetival, preposicional y adverbial", pp.185-189"

1.¹ 形容詞句

1.1 定義

形容詞句 (grupo adjetival, sintagma adjetival, frase adjetival)

= 修飾部や補語を伴うことができる、形容詞を核とする統語グループ

名詞の修飾語としての機能

例) las manzanas muy verdes

属詞としての機能 (いくつかのバリエーション有)

例) Las manzanas están muy verdes.

Las veo muy verdes.

1.2 形容詞句の構成要素

名詞句の場合と同じく形容詞句においても、一つの形容詞から成る場合と複雑な構造の場合がある。

例) Vio calles estrechas. (一つの形容詞から成る場合)

Hizo los cada vez más imprescindibles cambios. (複雑な構造)

Estaba plenamente satisfecha de su nueva vida. (複雑な構造)

1.3 形容詞句の構造

形容詞句の構成要素は、互いに関係しあいながらもその中には階層が存在している。つまり、一つの要素が他の要素に従属するという関係性を持っている。例えば、demasiado cansado de esperar は次のような構成となっている。

a) 句の核は cansado で、そこに de esperar が加わり一つ目のかたまりを構成している。

b) 程度を表す数量詞 demasiado は cansado de esperar を修飾している。

¹ 節番号は担当者が付加。

つまり以下のような関係性を持つ。

→ cansado > cansado de esperar > demasiado cansado de esperar

形容詞に影響を及ぼす要素は二種類に分類できる：修飾語と補語

※² 補語は基本的になれば意味が通じなくなるもので、修飾語はなくても意味が通じるもの。

この部分に関してはのちの記述を見ると、矛盾しているように思える部分もあり、解釈や用語の意味の幅のズレが感じられることも分かった。

1.4 形容詞句の修飾語

主に句の頭に現れ、形容詞によって示される属性・特性の範囲や程度を決定するもので、一般的には程度の強意語もしくはそれに似た副詞である。視点を表す副詞や、モダリティの副詞、焦点を表す副詞などの他の副詞もこれと同じ働きをする。

a) 強意語（程度の存在する形容詞を修飾し、形容詞によって示された属性を付加する程度を決める。形容詞によって形成されている句と、その補語に影響を与える。）程度を表す副詞、-mente で終わる副詞やそれに似た働きを持つもの（muy, poco, algo, bastante, demasiado, bien, excesivamente, sumamente...: muy bueno, demasiado difícil）がこの役割を果たす。また、比較の数量詞（más, menos, tan: tan barato como este）や結果を示す数量詞（tan: tan frío que no se podía beber）も同様の働きを持つ。

b) 視点を表す副詞（desde el punto de vista と同じ意味を持つ）

: países lingüísticamente heterogéneos

c) モダリティの副詞（形容詞の表現する意味と関係のある、話し手の態度を示す）

: escena lamentablemente cotidiana, funcionarios indudablemente preparados

d) 焦点を表す副詞（形容詞を際立たせる）

: un riesgo específicamente económico

1.5 形容詞句の補語

形容詞句の補語は前置詞句で、二種類ある：必須補語、付加補語

必須補語

形容詞の意味によって導かれ、ある特定の文脈においてはその出現は暗黙の了解となっている。

※暗黙の了解、つまり文脈によって意味が通じる場合は省略することができる。

形容詞によって要求される前置詞が前につくことがある。

例) fiel a sus principios, digna de lástima, harto de comer, contenta con su suerte, apta para estudiar, incompatible con la vida, llena de luz

de が先行する補語は、de の前に現れる形容詞の元になる他動詞の直接補語に由来している。

例)	amante <u>de la música</u>	=>	amar la música
	causante <u>de la crisis</u>	=>	causar la crisis
	deseoso <u>de contarlo</u>	=>	desear contarlo
	estudiosa <u>de su obra</u>	=>	estudiar su obra
	merecedora <u>del premio</u>	=>	merecer el premio

² ※は担当者の補足。

付加補語

また、形容詞の意味そのものが必要とはしない、つまり付加的な補語も存在する。

例) feliz durante unos meses, torcido hasta la punta, lleno hasta la mitad

これらの補語は次の例のように、必須補語と同時に現れることもある。

例) la persona más próxima a mí en el vagón, fiel a sus principios hasta la muerte

2. 前置詞句

2.1 定義

前置詞句は前置詞とその項(término)つまり補語(complemento)によって構成される。修飾部がつくこともある。

前置詞の補語は省略することができず、前置詞のすぐ後ろにつく。

例) Vengo de la calle ~ *Vengo la calle de

2.2 前置詞の項/補語

次の要素が前置詞の項/補語として挙げられる。

a) 名詞句、代名詞句 : desde la casa, con ella, de sí

b) 形容詞句 : pasar por tonto, pecar de impulsivos

c) 副詞句 : hasta aquí, desde enfrente de la casa

d) 前置詞句 : de entre los arbustos, tras de ti

e) 動詞を伴う名詞従属節

: 平叙文/叙述文

la noticia de que se había producido una explosión, la razón de cambiar de trabajo

: 間接疑問

la incertidumbre de si estaría vivo o no

2.3 前置詞句の修飾語

文脈によっては、修飾語がつくことがあるが多くの場合は前置詞句の前に置かれる。

例えば、muy hacia el sur において数量詞 muy は句全体を修飾している。前置詞句の修飾語は次のような機能を持つ。

a) 正確さ、概算を表現する副詞や副詞句 : exactamente por esa razón

incluso, hasta, aun, solo, ni siquiera のような※focalizadores (仮に焦点化詞とする)を組み合わせることもできる。

: incluso en el siglo pasado, hasta por la carretera, aun sin su trabajo, solo por eso

b) 数量詞句 : dos metros sobre el suelo

c) 数量や程度を表す副詞 : más hacia la derecha

2.4 前置詞句の機能

前置詞句は核の必須要素もしくは付属要素として現れる。属詞、述語となることもある。

必須補語

前置詞句によって被制辞の補語が構成される。つまり、必須補語は動詞 (contar con su ayuda) や名詞 (miedo al fracaso)、形容詞 (paralelo al río) に依存する形で機能する。

付加補語

付加補語の場合の前置詞句は、核によって選ばれるのではなく核との間の意味的關係によって以下のように区別される。

分類補語 (avión de combate, libro de música)

限定補語 (las noticias de la tele, el auto de Marta)

状況補語 (Salen con amigos.)

属詞的補語と叙述補語

前置詞句の中には、属詞的補語 (Este sombrero es de fieltro; Laura es de Caracas.) として現れるものと叙述補語 (La pintó con gafas; Déjanos en paz.) として現れるものがある。

※属詞は必ず名詞というわけではないので、属詞に関して学生に説明する際には注意が必要。

3. 副詞句

3.1 定義

副詞句は副詞を核とし、副詞単体の場合と、制約はあるが修飾語、補語とともに現れる場合がある。

例) Lo hizo cuidadosamente.

Llegaron un poco antes de las cuatro.

3.2 副詞句の構造

副詞句の構成要素は互いに関連し合っていて、その中には一つの要素が他の要素に従属するという階層が存在している。

例えば、un poco antes は次のような構成になっている。

- a) 核となる antes に補語である de las cuatro がついて一つ目の副詞句となる。
- b) 程度を表す un poco は antes だけを修飾しているのではなく、antes de las cuatro 全体を修飾する。
そして一つ目の副詞句を含んだ二つ目の副詞句を作る。

関係を順に並べると以下ようになる。

→ antes > antes de las cuatro > un poco antes de las cuatro

3.3 副詞句の修飾語

副詞句の修飾語は副詞であることが多く、句の最初に現れる。場所、時間、様態の副詞が最も頻繁に修飾語を伴う。

副詞句の代表的な修飾語は以下のようなものである。

- a) 程度を表す数量詞 : muy lejos, demasiado lejos
- b) 比較、結果を表す数量詞 : más tarde que ayer, tan lejos que no se ve
- c) 焦点の副詞 : casi bien, solo hoy, precisamente aquí
- d) 量を表現する名詞句 : dos horas después, varios metros delante de la casa

-mente で終わる副詞は組み合わせられることがあまりない。実際に、solamente políticamente より solo políticamente が好まれ、asombrosamente fácilmente とは言えないが asombrosamente fácil は許容される。

3.4 副詞句の構造

副詞、特に時、場所の副詞は前置詞補語を受けることができる。

例) antes de las cuatro / lejos de casa

訳語作成のための参考資料

高橋覚二(1996)「スペイン語文法用語集 Terminología gramatical del español」,
< <http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/~ktaka/tergra/tergra.htm> > 2017年06月02日アクセス.
坂東省次・堀田英夫編著(2007)『スペイン語学小辞典』同学社.